

広報
第38号

上野東部だより

2017年12月15日
発行
東部地域住民自治協議会
総務広報部会
伊賀市緑ヶ丘東町920
上野東部地区市民センター内
TEL・FAX 24-3999



浴衣を着て踊って、
みんなで楽しもう!

車坂町盆踊り大会

残暑きびしい、8月26日（土）午後6時から東お旅所で車坂町自治会主催、「あすなろ会」「児童福祉会」協力で盆踊り大会が4年ぶりに行われました。午前中ははげしい雨にみまわれましたが、午後からはやみ暑い日射しが照りつけ盆踊り日となりました。

児童福祉会から事前に配布された「無料ジュース券」を手に子どもたちが次々と集まり、「綿菓子」「かき氷」「スーパーぼールすくい」コーナー等に行列ができました。その他「やきそば」「フランクフルト」「ジュース・ラムネ・お茶」コーナー等の販売が町をあげて実施され、うちわの無料配布もあり、子ども、お年寄り、若者たち約300名近い人たちでぎわいました。

午後7時過ぎ日が暮れてきた頃から、いよいよ盆踊りが始まりました。江州音頭とりを50年以上している地

元、「桜川好玉会（代表：桜川好玉）」のメンバーと本場滋賀県からの2名が加わりその歌声で盆踊りがはじまりました。櫻をかこみ最初は地元車坂町の踊りを20年以上続けている「松栄会」の4人の方々が浴衣姿でおどり始めました。初めは踊る人の輪が小さかったのですが、どんどんと大きな輪となり、大盛況の中夜が更けていきました。

安全確保のため、警備保障の方々、地元車坂町の消防団の見守りもあり、無事、安全に終わることができました。子どもたちは夏休みのよい思い出となり、また若者もお年寄りも町内の皆さんのが顔合わせをして楽しく過ごせました。今後も継続開催を期待したいと思います。

（取材：縄手 淳）

「安全」「安心」で快適なまちづくり 2017 自主防災訓練



10月28日(土)、台風22号接近のため、雨模様の中、会場を多目的広場から伊賀市民体育館に変更して「第10回東部地域住民自治協議会防災訓練」を実施しました。東部地域住民自治協議会主催、上野都市ガス(株)共催、伊賀市消防本部中消防署の後援で午前9時半開会、16町の自治会から約380名が参加、前回と同様、炊きだしのメンバーは現地で募集、10名ほどの方がアルファ米作りに頑張ってくれました。

和気あいあいの訓練で、閉会式では西森中消防署副署長より、大切なのは普段からのご近所のつきあいで互助の姿勢、この訓練を通してまず日頃から顔なじみになることが大切で、訓練自体は楽しんで学んでほしいと話がありました。最後に防災防犯交通安全部会部会長代理の南さんより主催者側の挨拶があり、12時閉会で無事終了しました。

消火訓練



「実際に消火器を使っての訓練は為になりました。子どももびっくりして良かった。」

煙体験



初めて参加された方は、一寸先も見えなくなる怖さを体験、「本当の火事の時はパニックになりそう。」と話していました。

救出訓練(心肺蘇生)



親子5人そろって初めて参加されていた方は、蘇生のやり方に一生懸命取り組んでいました。今日は現地まで、災害の為の訓練と雨の中歩いて参加されたそうです。

止血法(三角巾)



三角巾の万能を消防署の方に教えていただき、自宅にもストックしておこうという方が多数おられました。

炊きだし



地震体験車



(取材:内牧 幸子)

居住環境のたいへん良い町 シニアの元気な町

1967(昭和42)年1月、正式発足した緑ヶ丘西町は市街地の南東部に隣接し、町の北から北西は茅町、南西から南は久米町の一部、桑町に接している。町の北西に隣接の大型スーパー、ガス会社、西に隣接して保健施設、総合病院などがあります。町内には北にバナナ加工流通センター、多くのマンション、ハイツ等、南端には県立伊賀白鳳高校、その西には東海ラジオ上野放送局のアンテナがそびえ立っています。市街地には至近距離で、伊賀鉄道桑町駅、茅町駅にも近く、さらに保育園、小学校や銀行、郵便局なども近くにあり、適度に農地や緑地も残り、日常生活には住みやすい環境にあります。

特筆すべきは、シニア世代が活発に趣味にアウトドアにと活躍してたいへん元気な町です。シニアクラブには現在70名以上が加入し、以下5つのクラブのいずれかに所属し、活動日にはクラブ員が参加してそれに楽しんでいます。1.グランドゴルフ部 2.カラオケ部 3.歌おう会 4.手芸部 5.園芸部の各クラブが組織されています。

また、毎月第3土曜日には、公民館にて「ふれあいの会」という会を高齢の方たちを招いて昼食会を20年以上前から継続してお昼のひと時を楽しく過ごして頂いています。



(寄稿:緑ヶ丘西町自治会長 伊藤 憲司)

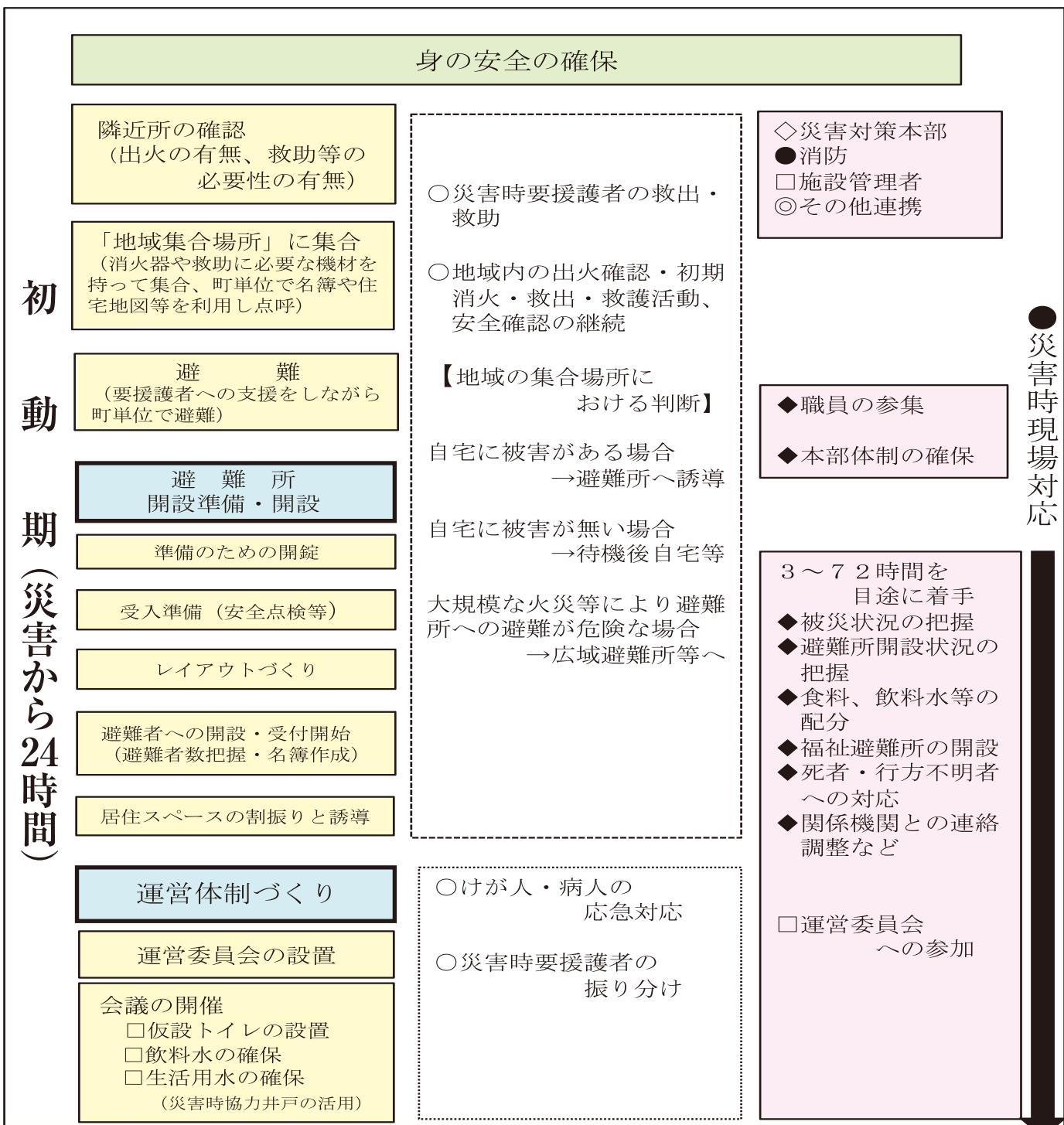
避難所マニュアルについて ③

災害が大規模になれば、市内全域になるためこの状況から生きのびるためには、自らもしくは地域の力により回避するしかありません。広報35号（東部だより）から避難所マニュアルの重要なところを掲載しています。第1回は各自治会別災害時の避難場所、第2回は避難所開設・基本方針について、今回は災害発生～避難所開設・運営・撤収の流れについて掲載します。掲載内容に目を通していただくとともに住民の一人一人が自助・共助が如何に大切であるか再認識し「住むまちを地域で守る」という防災意識の高まるることを願っております。

災害発生～避難所開設・運営・撤収の流れ

（大規模地震の場合）

発生



展開期（24時間目から3週間ほど）

安定期（3週間目以降）

避難所運営

- 行政との連絡体制の確立
- 在宅避難者への対応
- 物資確保

- ◎災害ボランティアセンターの開設準備

- 地域の担当者と連携・支援

- ◎ライフラインの確保・確立

避難所の安定化

- ルールの確立
- 生活支援
- 常用医薬品の確保
- 居場所づくり
- プライバシー確保対策
- 管理（衛生・食事・健康）の徹底
- 相談体制の確保
- こころのケア（遺族含む）

- 町単位の安否確認終了
- 災害時要援護者への対応終了（緊急入所、福祉避難所）
- 1週間をめどに安否確認終了

- ◆罹災申告の受付
- ◆義援金等の受付
- ◆相談窓口の開設など
- ◎家屋の応急危険度判定

- ◎防災ボランティアセンター開設・運営（目標）
- 施設再開へ向け準備
- 医療対応→保健・福祉対応へ移行
- 生活衛生関係施設の状況把握と情報提供

避難所統廃合

閉鎖に向けた動き



- 学校再開へ（並存の可能性あり）

- ◆本来機能の早期回復
- ◎緊急小口資金貸付制度開始
- ◎仮設住宅建設計画の具体化

滋賀県草津市笠縫東学区 まちづくり協議会との 交流会

10月31日(火)10時から東部地区市民センターにおいて、滋賀県より草津市笠縫東学区まちづくり協議会の方々、16名が訪問され視察研修会が開催されました。

東部地域住民自治協議会の服部会長及び草津市笠縫東学区まちづくり協議会卯田会長の挨拶の後、東部地区市民センター堂山センター所長より、東部地域、部会活動の概要についての説明があり、質疑応答にはいりました。笠縫東学区まちづくり協議会の地域の現状は14町内会、人口10,339人、4379世帯、高齢化率24.5%で東部地域住民自治協議会と比較的よく似た協議会で関心のある課題、「防犯活動」「健康づくり」等について活発に意見交換されました。最後に東部側からも質問をし、笠縫東学区まちづくり協議会の「ほたるフェスタ」をはじめとする多種多様な事業展開、「自主財源の確保」の取り組み等について、勉強することができました。約2時間の短い交流会でしたが、有意義な場となりました。



東部地域住民自治協議会と草津市笠縫東学区
まちづくり協議会との交流会



ホットコーナー

年賀状



編集後記

今年は、上野天神祭がユネスコ無形文化遺産に登録後、初の開催となりました。開催期間中はあいにくの天気となってしまいましたが、県内外に広くお祭りのことを知ってもらえる年になったのではないかでしょうか。

上野天神祭の盛り上がりと同様に、東部地域住民自

治協議会の更なる発展を期待したいと思います。今年も残り半月となりましたが皆さんのおかげで上野東部だよりも第38号の発刊につなげることができました。

上野天神祭の伝統継承のように、地域住民のつながりを次の世代にも残していくけるよう、部会員一同、一生懸命に取り組んでいきたいと思います。ご支援、ご協力よろしくお願ひいたします。
(松本 京子)